同人改組に就きて

今回本誌の斷行せる同人改組は、上演藝術に對する本誌の良心的立場の展示以外に、何等の他意あるものではない。本誌の趣旨とする處は僞らざる在野精神の露呈にあり、その爲には本誌の方向の決定者たるべき同人の質の再吟味が要望せられるに至つた。その結果として、素義其他として藝術團體と特殊の關係に在る人達、他の雜誌と特殊の關係に在る人達及び、執筆者として同人に選ばれたるに非ざる人達の勇退を希ふべく餘儀なくせられた。たゞその人達も本誌の立場を諒せられ、今後は賛助員として猶一層の支持を與へられ有益なる原稿を寄せられる筈である。斯くして本誌は第四百一號を期して、淨瑠璃・演劇の批評に、研究により一層の發展段階に到達したのである。

浪花名物 淨瑠璃雜誌 第四百一號 昭和十六年八月

目次

卷頭言——同人改組に就いて

佛蘭西古典悲劇研究……太宰 施門…(八)

戰爭と演劇……山本 修二…(二)

文樂研究

新橋演舞場の文樂……鴻池 幸武…(一六)

人形を中心に……內田富太郎…(四二)

志度寺のお辻……大西 重孝…(二九)

藝術と米櫃……武智 鐵二…(二六)

俳優對談記を讀んで……森 ほのほ…(二四)

舞踊大會を見て……林 秀雄…(四〇)

義大夫淨瑠璃の世界(五)……太宰 施門…(三四)

淨瑠璃目前の維持策(六)……南方 松若…(四八)

乙女文樂再演の佳照會……三千三…(五二)

特設 素義往來……(五五)

西海の狂瀾……(五七)

神聲會廿三回 第六回十一日會 倭會第八回

山陽素義會 平安會第一回 若女會第二十三回

四國に於ける土佐大夫追善會 漫柳